

令和2年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和3年4月30日

学校法人 宮地学園

幼稚園型認定こども園 杉の子せと幼稚園

当園ではこの度、学校評価として、教職員の自己評価と学校関係者評価を実施いたしました。教職員一人一人が、自らの教育活動や園運営の状況を振り返ることで、自分自身や園全体を見つめ直すよい機会となりました。また、それぞれの評価結果について、皆で話し合うことにより、成果や今後の課題、改善の方向性などを明らかにすることができました。この結果を深く受けとめ、更なる教育活動の充実、教育環境の整備、教職員の資質向上に努めてまいります。

1. 本園の教育目標

教育方針：「笑顔いっぱいの杉の子せと幼稚園！！」
教育目標：1. つよく・かしこく・たくましい子どもの育成。
2. 感性豊かなおもいやりのある子どもの育成。
望ましい子どもの姿：「自分の力で、仲良く、元気に、もうひと頑張りする子。」

2. 本年度重点目標・計画

子ども・保護者・教職員全員が笑顔で過ごせる”チームせと”をめざす。
・教育課程の改善：行事や教育・保育をその都度検討・協議し、幼稚園教育要領が示す10の姿も踏まえた保育計画に見直しを図り、環境設定を行う。実践を大切にし、子どもの成長を促す援助方法を探る。放送教育を取り入れ、教育・保育の質の向上を図る。
・職員の資質向上：公開保育の実施と職員会や学年会等を通しての情報交換を活発に行い、子ども理解やスキルアップを図る。
・特別支援教育の充実：関係機関との関係や教職員間の連携を深めながら支援の必要な子どもに寄り添える指導・支援を行う。
・安全管理体制の強化：アレルギー対応を含む安全で安心の給食環境を作る。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	教育課程を見直し改善を図る	A	・教育・保育活動の「反省、振り返り、評価」を重視した教育・保育実践に務め、子どもが笑顔で主体的に成長することを目指した。その結果、「反省、振り返り、評価」が、日々の教育・保育実践に定着するようになり、主体的な活動に取り組む園児の姿が多く見受けられるようになってきた。
2	職員の資質向上(研修・情報共有等)	B	・保育園部、幼稚園部の保育者が互いの教育・保育実践の研修交流や情報共有を通して資質の向上に努めていて、スキルアップによる質の高い教育・保育実践が出始め、園児も主体的に活動できるようになってきた。

3	特別支援教育のための園内支援体制を整備する (家庭との協力・連携も含む)	A	・特別な支援のいる園児一人一人の理解に努め、その子にあった対応や援助を探り出している。そして、全職員が共通理解を図ったうえで、協力しての指導・援助ができています。また、発育・発達で困ったことがあれば、その都度、全職員で話し合いをもつと共に関係機関とも連携を取り解決策を模索するように務めている。
4	安全管理体制の強化	B	・アレルギー対応では、保護者と連携を取りながら可能な限りの個別対応を行っている。また、配膳を工夫したり担任、副担任の複数の目でチェックをしたりすることで、安全な給食の提供ができる体制をつくってきた。

評価の基準 (A: 十分達成されている B: 達成されている C: 取組まれているが、成果が十分でない D: 取り組みが不十分である)

4. 総合的な評価結果

評価	理由
B	4つの評価項目について重点的に取り組み、一人一人の乳幼児を大切にされた質の高い教育・保育を実践することができたし、さらなる質の向上に向けた課題も明確になった。

5. 今後取り組むべき課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	教育内容	反省や課題を気軽に口に出して、相談し合えるような職員会等のミーティングを持つようにして、子どもが主体的に活動できる日々の教育・保育を実践していく。
		幼稚園部、保育園部の公開保育を核にし、教育実践のねらいに対する観点で研究協議を行い、保育者個々のスキルアップを図っていく。今後も、教職員のスキルアップのために研修交流と情報共有を大切にしていきたい。
		担任中心の子ども把握や理解が多いので、教職員間の情報交換を活発に行う必要がある。担任だけでなく、全職員がすべての子どもに係わり、把握や理解するように務める。また、特別な配慮を必要とする乳幼児の情報も全職員で共有し、共通理解を深めていく。
		慣れや不注意から対応がなおざりにならないよう常に高い意識をもって、安全な給食環境を作るように心がける。また、地震発生時の対応も常に意識し、園内で一つの命も失わない行動がとれるように心がける。

6. 学校関係者の評価

<横浜新町小学校校長>

主体的な活動に取り組む園児の姿が多くなってきたのは、これまでの様々な実践の積み上げの結果だと思えます。

園児や家庭との信頼関係を大切に築いているからこそ、園児自身が自分の力で充実感を味わうことができているように思います。また、園児が自主的な選択ができるようになるためには「やりたいこと」を思い切りやれる時間や空間も大事にされているのだと感じました。

<評議員>

「知・徳・体」のバランスのとれた教育を目指して子どもたちに様々な体験を提供し、「生きる力を育む」という、基本理念を現場の先生方が共有しながら子どもたちの成長を見守っている姿勢が素晴らしいと思います。

パンフレットの撮影などで何度もお邪魔させていただいていますが、いつ行っても子どもたちが元気いっぱい、先生方も一生懸命取り組んでおられます。

この理念に基づいた行動と現場のモチベーションの発揮は私たち民間企業でも最も重要と考えているところ です。

しっかりとした理念に裏付けられたリーダーシップとそれにこたえるメンバーシップによって「子供たちの笑顔」を「最高の笑顔」で引き出している皆様のご努力に今後も期待しています。

<杉の子せと幼稚園後援会会長>

担任の先生だけでなく、他のクラスの先生方も、子どもに声を掛けてくれることで、自分の存在を知ってもらい、自信を持って何事にもチャレンジできていると思う。声掛け、言葉一つで子供の表情が変わってきていると思う。

園の現状、地域の情報など、後援会を通して他の保護者とも情報共有ができています。

園長先生が、登園、降園時には門に立ち子ども達を見守ってくれているのは、安心感がある。

<あたご幼稚園園長>

未曾有の事態にも関わらず、主軸をブレさせず、子どもをいかに伸ばすかを、常に考えて来られた足跡を感じました。多くの制限があり、できることが少ない状況であったからこそ見えてきた事柄は、ズバリ「笑顔がいっぱいの杉の子せと幼稚園（チームせと）」であり続けることであったということ。それそのものが、子どもをよりよく育て、園に関係する多くの方々を幸せにする営みであると実感できたのではなかったか？と感じられたことでした。これは、まさに宮地学園の根幹であると思われま す。

私たちの仕事は、多岐にわたり大変複雑な作業です。とても煩雑な日常ですから、保育の中で方向性を見失わないようにしていく作業が必要です。貴園では、今年学園のランドマークとなる部分を先生方全員で実感しました。『今まで、当たり前にしてきたことが、本当に重要なことであった』と実感できたこと。研修等では学ぶことができないこの体験は、本当に素晴らしく貴重なことであったと思います。質向上という意味では、これ以上の成果はないと感じています。この体験が今後の保育力に繋がるはずと感じました。

私は、学校評価について、園が持っている力を再認識し、スタッフが自信を持って次に進んでいくための営みでありたいと考えています。それには、今自園が持っている素晴らしいものをしっかりと見つけ出し、それを更に素敵なものへと広げようとしていくべきであると考えています。課題や改善点をえぐり出すような作業をしては、先生方のやる気を削ぐだけでなく、自分の価値を低く捉えてしまうことに繋がりがかねない危険性があると思っています。一方、貴園の営みからは、振り返りによって自分たちのしっかりとした足跡を見つけたことによって、きっと「今年よく頑張ってきた」「やってよかった」と感じながら自己評価が進んだのだろうなと思えたことでした。こうでなければいけないと考えています。

このベクトルに気付けば、おのずと仕事が楽しくなると考えます。今後さらなるご活躍を楽しみしています。